

1

1ST PRE-LECTURE
27 JULY
ART DIRECTOR TSUTOMU OKADA'S
THOUGHTS ON THE LIFE OF AN
ARTIST AT SLEEPLESS NIGHTS

3RD SESSION
18 SEP
WORLD-RENOWNED INTERACTIVE MEDIA
ARTIST YASUAKI KAKEHI: THE FUTURE OF
THE FLEXIBLE CONNECTION BETWEEN
ART, SCIENCE AND THE HUMAN MIND

2

2ND WORKSHOP
29-31 AUGUST
RAKUFU HAYAKAWA
CONVEYING THE ART
OF THE BODY THROUGH
PLAY: MANNERS FOR
FREELY EXPRESSING
AND ENJOYING LIFE

3

4TH SESSION
22 OCTOBER
SPACE-TIME AND THE
PHYSICAL SENSES OF
TSUYOSHI TANE, AN
ARCHITECT WHO GIVES
FORM TO MEMORY,
CONNECT
THE PAST
AND THE FUTURE

4

5

STUDY
FOR
ARUKU

5TH SESSION
16 NOVEMBER
EMI TAMAKI, A
RESEARCHER WHO
COMMUNICATES
PHYSICAL SENSATIONS
AND EXPERIENCES: DATA
REVEALS PHYSICAL
PERFORMANCE

6

6TH SESSION
28 NOVEMBER
YUKIKO KAGA,
FORMER RESTORER
OF PAINTINGS
AT THE LOUVRE,
CALMNESS AND
CERTAINTY COME
FROM PHYSICAL
SENSATION AND
EXPERIENCE

7

7TH SESSION
19 DECEMBER
YOSHIYUKI MIYAMAE, WHO
EMBODIES THE NEXT GENERATION
OF CLOTHING MAKING: A WAY
OF THINKING TO EXPLORE THE
RELATIONSHIP BETWEEN THE
BODY AND CLOTHING IN ITS
ESSENTIAL NATURE



達人たちの核心に触れ、気づき、自らを基礎づけるための連続講座シリーズ

各分野の第一線で活躍されているアーティストや研究者の方をお招きし、プロフェッショナルとして磨かれてきた感性や美学、思考の方法の共有を、安藤との対話形式でお話を伺います。

心の妙薬は耳から服します。今私たちに必要な言葉を紡いでいけたらという願いからスタートしたこのZAGAKU。生きること＝創造することを体現されている魅力あふれるゲストの方々が身に纏っている慈愛ある眼差し。その眼差しの奥に光る鋭く見つめているものの存在を語っていただくとともに、身体感覚や空間の捉え方、発想の源を紐解くことで、参加者とともに気づきに繋がる豊かな学びの場をつくります。

新しい次元の感触をぜひ一緒に耳から味わってください。

プロジェクトリーダー：安藤洋子

ZAGAKU STUDY FOR ARUKU

2018年より象の鼻テラスにてスタートしたZOU-NO-HANA BALLET PROJECT。横浜出身の世界的ダンサー安藤洋子をプロジェクトリーダーに迎え、ダンサーの育成と横浜生まれ横浜育ちのカンパニーの設立を目指しスタートしました。今日では、バレエ、コンテンポラリーダンスにとどまらず、身体を使ったより自由な表現を探求するダンスアートプロジェクトとして継続的に活動しています。これまでに、講義シリーズ「ZAGAKU

(座学)」や、「ARUKU (歩く)」ことを身体表現の起点と捉え、空間や時間、動き、関係性を見出していくパフォーマンスを、さまざまな世代のメンバーと共に実施してきました。そのパフォーマンスに至る手前にある、物事を探求する姿勢を学び考える講座シリーズとして、今年度は「ZAGAKU STUDY FOR ARUKU」を開講します。ダンスに関わる人をはじめ、多くの市民の方々と共に、よりよく生きることを考える場を目指します。

第1回 プレレクチャー

7月27日 (木)

アートディレクター・岡田勉の眠れない夜に考える
アーティストとして生きること

第1回目はプレトークとして、象の鼻テラスアートディレクターの岡田勉が登場。

日程：2023年7月27日 (木) 19:00-21:00

参加費：無料

講師：岡田 勉 (象の鼻テラス アートディレクター)



© 川藤彰水

第2回 特別版ワークショップ

8月29日 (火) - 31日 (木)

遊びの中から身体の極意を伝える早川楽風
自分を自由に表現し、楽しく生きる為の行儀作法

8月は安藤洋子ワークショップの特別版として、3日間連続開催。

日程：2023年8月29日 (火) - 31日 (木) 18:30-21:30

参加費：1日3,000円

*安藤洋子ワークショップの3回チケットもご使用いただけます。

ゲスト講師：早川 楽風 (ボディ&マインド・ライフコーチ)



第3回

9月18日 (月・祝)

世界が注目するインタラクティブ・メディアアーティスト 梶原康明
芸術と科学、人の心をしなやかにつなぐ未来

アートと学問の領域を行き来する研究と身体感覚の接点について。

日程：2023年9月18日 (月・祝) 19:00-21:00

参加費：2,000円

ゲスト講師：梶原 康明 (東京大学大学院 教授)



作品名: Soundform No.2, レイク管による熱音響変換現象を用いた気流と共に音を奏でるインスタレーション

© Naoya Machina

第4回

10月22日 (日)

過去と未来、記憶をカタチにする建築家・田根剛の時空と身体感覚

過去と未来を繋げ、行き来する時間感覚や記憶、身体と建築の関係性について。

日程：2023年10月22日 (日) 19:00-21:00

参加費：2,000円

ゲスト講師：田根 剛 (建築家/ATTA - Atelier Tsuyoshi Tane Architects)



「帝国ホテル東京・新本館」(2036年完成予定)

© Atelier Tsuyoshi Tane Architects

第5回

11月16日 (木)

身体感覚や体験を伝達する研究者・玉城絵美
データで見る身体パフォーマンス

安藤洋子の動きを数値化したデータを解析、解説。

日程：2023年11月16日 (木) 19:00-21:00

参加費：2,000円

ゲスト講師：玉城 絵美 (琉球大学教授/東京大学教授/H2L, Inc. CEO)



安藤洋子の動きをデータで見るイメージ

第6回

11月28日 (火)

元ルーヴル美術館絵画修復員・加賀優記子
冷静さと確信は身体感覚と経験から生まれる

修復作業に向かう際に大切にしていることや、技術を後継する若い人達に伝えたいこと。

日程：2023年11月28日 (火) 19:00-21:00

参加費：2,000円

ゲスト講師：加賀 優記子 (絵画修復家)



作品の修復を行う様子

第7回

12月19日 (火)

次世代の服づくりを体現する宮前義之
身体と服の関係の本質から探る思考方法

身体と服との関係や他者とのコミュニケーションから生まれる服づくりについて。

日程：2023年12月19日 (火) 19:00-21:00

参加費：2,000円

ゲスト講師：宮前 義之 (デザイナー)



© ISSEY MIYAKE INC.

安藤 洋子

神奈川県横浜市生まれ。コンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。2001年アジア人として初めて、鬼才の演出家ウィリアム・フォーサイスの目にとまりドイツ・フランクフルトバレエ団に入団。メインソロダンサーとしてドイツを拠点とし世界各国で踊る。現在は横浜を拠点にアーティストとして自己身体表現を模索するとともに、経験を生かした芸術教育にも力を注ぐなど精力的に活動を続けている。



© Hajime Kato

岡田 勉

1963年生まれ。1988年株式会社ワコールアートセンター入社。同社が運営する複合文化施設スパイラルのシニアキュレーター。スパイラルで行われる現代美術展の企画や、外部施設の展覧会企画、パブリックアートのプロデュースなどを手がける。2005年に行われた「愛・地球博」の公式アートプログラム事業のキュレーターを務めた。2009年から横浜市の「象の鼻テラス」のアートディレクターに就任。



早川 楽風

1955年生まれ。お氣楽稽古会 代表。昭和薬科大学心理学教授、心理学特別講師と共に心理治療を行う。その後、首相官邸真裏の弁護士事務所に勤務。竹居昌子先生と出会い野口整体を38年間学ぶ。また、身体障がい・知的障がい者施設に34年間勤務。障がいを持った子供達との関わりの中で、日本人の日常生活の身体文化を独自で研究する。現在、医者、心理学教授、その他あらゆるジャンルのプロ達の指導を行う。



寛 康明

インタラクティブメディア研究者／アーティスト。東京大学大学院情報学環教授。博士(学際情報学)。慶應義塾大学、MIT Media Labなどを経て、2018年より東京大学大学院情報学環准教授、2022年より教授。物理素材特性を活かし制御するインタフェース技術や、身体や環境に呼応する作品を制作する。CHI 2017 Best Paper Award、STARTSPRIZE 2022 Honorary Mention、第23回文化庁メディア芸術祭優秀賞など受賞多数。https://xlab.iii.u-tokyo.ac.jp



田根 剛

建築家。1979年東京生まれ。ATTA-Atelier Tsuyoshi Tane Architectsを設立、フランス・パリを拠点に活動。場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、現在、世界各地で多数のプロジェクトが進行中。主な受賞にフランス国外建築賞グランプリ2021、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞など多数受賞。www.at-ta.fr



© Yoshiaki Tsutsu

玉城 絵美

琉球大学工学部教授／東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻特定客員大講座教授／H2L, Inc. CEO
人間とコンピュータの間の情報交換を促進することによって、豊かな身体経験を共有するBody SharingとHCI研究とその普及を目指す研究者兼起業家。2011年に手の動作を制御する装置PossessedHandを発表しTime誌が選ぶ50の発明に選出、2012年にH2L, Inc.を創業し、UnlimitedHand、FirstVRなどの製品を発表しサービスへと展開。2020年国際会議AugmentedHumanにて、近年で最も推奨される研究論文として表彰。



加賀 優記子

現在まで多くの学生に修復技術を教えてきている。修復歴35年以上。現在までに修復した作品は約4000点以上となる。多くの美術館、ギャラリー、企業の所蔵作品修復を手がける。1986-1992年、ルーヴル美術館絵画修復員として勤務。1992年帰国、鎌倉絵画修復工房設立。1998年、小山敬三賞修復部門賞受賞。1999年、公益財団法人野村財団 美術賞受賞。2001年ベルリン国立博物館ラトゲン研究所研修。2011年絵画修復エデュケーション・センター設立、現在に至る。



宮前 義之

A-POC ABLE ISSEY MIYAKE デザイナー
1976年東京都生まれ。2001年三宅デザイン事務所に入社し、三宅一生が率いたA-POCの企画チームに参加。その後ISSEY MIYAKEの企画チームに加わり、2011年から19年までISSEY MIYAKEのデザイナーを務めた。2021年にスタートした新ブランド「A-POC ABLE ISSEY MIYAKE」では、エンジニアリングチームを率いて、A-POCの更なる研究開発に取り組む。



© ISSEY MIYAKE INC.

お申し込み方法

希望の参加日時／名前(ふりがな)／年齢／電話番号／メールアドレスをご記入の上、yokohama-ballet@zounohana.comまでお申し込みください。

※件名に「ZAGAKU申込」とご記入ください。
※各回定員100名。定員になり次第締め切らせていただきます。
※お預かりした個人情報は、本企画に関する連絡のみに使用させていただきます。

主催：象の鼻テラス

協賛：株式会社FREEing

企画制作：スパイラル／株式会社ワコールアートセンター

※象の鼻テラスは、横浜市の委託によりスパイラル／株式会社ワコールアートセンターが運営しています。

〒231-0002 横浜市中区海岸通1丁目 TEL: 045-661-0602 FAX: 045-661-0603
https://bp.zounohana.jp/



アクセス：みなとみらい線「日本大通り駅」出口1より徒歩約3分、出口2より徒歩約5分